

## 中間報告書（平成 23 年度）

提出者 岩井八郎

提出年月日 2012年3月29日

### 【プロジェクト名】

和文 数量調査によるアジアの家族と社会研究

英文 Quantitative Research Group on Asian Families and Societies

### 【メンバー構成】

研究代表者 岩井八郎

幹事

メンバー 鍛冶致、溝口佑爾、岡田丈祐、竹内麻貴、柴田悠、貫田優子、伊達平和

### 【ねらいと目的】（600 字程度）

アジア社会の近年の変動と家族との関係を大規模な数量調査の結果を比較することによって明らかにすることが、研究プロジェクトのねらいと目的である。本年度は、昨年度に引き続き、アジア諸国で進む急速な女性の高学歴化と家族意識、家族関係との関係に焦点を当てて、EASS2006 の東アジアの家族調査の 2 次分析を行い、さらに 2010 年に実施したタイ調査、ならびにベトナム調査についても本格的な分析を開始した。メンバーの研究テーマについては、各自の関心に基づいているが、高学歴化の影響を検討することを共通の研究視点としている。扱っているテーマは、性別役割意識と日常活動（家事分担など）、家父長制に対する意識、夫婦の勢力関係、世代間の援助行動、結婚観と離婚観などで、「アジアの高学歴化と家族の変容」に関する研究書の刊行をめざして研究会活動を行っている。研究会活動を継続することに加えて、とくに今年度は、内外の学会での研究報告を行い、研究交流を深めることをめざした。とくにベトナムにおける、アジア数量調査の研究ワークショップに参加し、研究成果を報告し、アジアの研究者からのコメントによって研究内容の向上に努めた。さらに、カタール、マレーシア、インドにおいても同じ設問を用いた調査の実施が予定されており、その企画と実施にも積極的に関与して、数量調査研究の発展を目指している。

### 【活動の記録】

2011 年 4 月 1 日：アジア学会における研究報告；

Hachiro Iwai, "The Expansion of Women's Education and its effects on Family Values: A Comparative Study Based on East Asian Social Survey 2006," Joint Conference of the Association for Asian Studies & International Convention of Asia Scholars, Honolulu Hawaii, April 1.

2011 年 5 月 20 日：2011 年度第 1 回研究会：関西社会学会における報告の予行。

2011 年 5 月 28 日：第 62 回関西社会学会における共同報告；

共同報告：東アジアの高学歴化と家族観の変容—EASS 2006 の分析から—

(1) 溝口佑爾「世代間援助意識の変容にみる女性の高学歴化の影響」

(2) 竹内麻貴「日本・台湾・韓国女性の性別役割意識と高学歴化」

(3) 岡田丈祐「子育て方針の決定をめぐる夫婦関係と高学歴化」

2011年7月29日：第2回研究会：各自の研究報告

2011年8月19日：第3回研究会：各自の研究報告

2011年9月12日～14日：ISA RC06-CFR Kyoto Seminar 2011 報告とポスターセッション参加

Hachiro Iwai, "The Expansion of Women's Higher Education and its Effects on Family Values and Practices in Asian Societies: A Comparative Study based on EASS-2006 and Thai & Vietnam Family Surveys 2010."

Yuji Mizoguchi, "An Influence of Women's Popularizations of Higher Education upon a Change of Desirable Financial Assistance to Parents: A Comparative Analysis data-based on EASS 2006".

2011年9月30日：第4回研究会：各自の研究報告

2011年12月16日：第5回研究会：各自の研究報告

2012年2月3日：第6回研究会：ハノイにおける研究報告の打ち合わせ

2012年2月20日：Asian Family Survey Meeting in Hanoi, 研究報告

Haruka SHIBATA, "Care and Support between Parents and Their Grown-up Children: in 6 East Asian Societies: A Principal Component Analysis Using EASS-2006 Data."

Itaru KAJI, "The Variations of Attitude Toward Divorce Among Six Societies In East Asia."

Heiwa DATE, "The Variety of Patriarchal Values in 6 Asian Societies: An analysis of the combination of father authority and gender role attitude."

Yuji MIZOGUCHI, "An Influence of Women's Popularizations of Higher Education: upon a Change of Desirable Financial Assistance to Parents in East Asia—A Comparative Analysis data-based on EASS 2006."

2012年3月28日 第7回研究会：各自の研究報告、出版計画の打ち合わせ

**【成果の概要】**（800 字程度）

今年度の成果として、以下の 2 つの論文の内容を紹介する。

溝口佑爾論文「世代間援助意識の変容にみる女性の高学歴化の影響—EASS 2006 を用いた比較分析—」大阪商業大学 JGSS 研究センター編『日本版総合的社会調査共同研究拠点 研究論文集 [1 2]』（2012 年 3 月大阪商業大学 JGSS 研究センター 発行）169-181 頁；本稿は、EASS 2006 のデータを用いた重回帰分析によって、親孝行に対する規範意識に学歴の高さが与える影響を日本・韓国・中国・台湾の 4 か国で比較・検討した。また分析結果に対して、急速な高学歴化という視点から Chang Kyung-Sup による「圧縮された近代」の有効性を議論した。分析結果によれば、女性の経済的な親孝行に対する規範意識が台湾の若年女性において高いこと、そしてその特徴が学歴の高さを經由して実現されていた。この結果に対して、本章は、急激な女性の高学歴化というマクロな社会変動が、経済的要因や産業的要因を經由することなく規範意識の変容へと影響を与える可能性を論じた。「JGSS 優秀論文 2011」を受賞する。

伊達平和論文「高学歴が家父長制意識に及ぼす影響についての比較社会学—日本・韓国・台湾・中国・ベトナム・タイにおけるアジア 6 カ国比較—」（現在投稿中）；本稿は、東アジア・東南アジア社会の「圧縮された近代」に伴う急速な家族の変容と、価値観の変容を背景とし、家父長制意識の多様性とその意識に対する高学歴化の影響を計量的に分析した。まず、家父長制意識を父権尊重意識と性別役割分業観の二つの軸でとらえ、4 つの象限に整理し、データ分析を行った結果、東アジア・東南アジアの家父長制意識は、Ⅰ伝統的家父長主義、Ⅱ分業的平等主義、Ⅲ近代的自由平等主義、Ⅳ儒教的自由主義の 4 つの家父長制の型に概念化され、各国の相対的な家父長制意識の特徴が明確に示された。中国と台湾は伝統的家父長主義、韓国は儒教的自由主義、日本は近代的自由平等主義、タイとベトナムは分業的平等主義に分類される。さらに、家父長制意識に対する高学歴の影響に関して、東アジアと東南アジアでは家父長制のタイプと高学歴が家父長制意識に与える効果に違いがあることが示された。

他の研究会のメンバーも、各自のテーマで研究論文を作成中である。

**【通信欄】**

（事務局記入欄）

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	(千円)	実績額



RC06 Kyoto Seminar,  
Special Session: Asian  
Families in Transition の関  
係者一同  
2011年9月13日



ハノイ、Asian Family Survey Meeting の様子  
2012年2月20日



ハノイ社会科学院でのセミナー、  
岩井の報告、  
2012年2月22日